

十圓のプレミアムが勘定せられて、二千萬圓のプレミアムが大株主等に與へられることとなる。かくの如きは徒に株主を利益し、ガス消費者を高く料金を以て搾取するのである。

三、増資は重役に五十萬圓の重役功勞金を不當に取得せしむるものである。重役は既に普通の給料の外に賞與金を取居るのみならず、其上に五十萬圓を十人の取締役及三人の監査役に分配せんとするは強慾も甚だしい。元來報償契約に於ては第八條に「會社は毎決算期に於ける純益金より總損金を差引きたる残額の百分の六に相當する金額を市に納付するものとす。但總損金中に各種の積立金及賞與金其の他之に類する支出を包含せず」と規定しあるに拘はらず、昭和三年七月二十七日の株主總會に於て定款を改正し、舊三十七條「本會社は毎期總收入金の内より營業上一切の費用及損失を引去りたる残額より市納付金を控除したるものを純益金として之を準備積立金、用人退職手當金、役員賞與金及交際費株主配當金並別途積立金に分配す」の中〇點のある部分を削除し、尙「毎期總收入金の内より營業上一切の費用及損失を引去りたる残額より市納付金を控除したる金額の百分の三以上を使用人退職手當基金百分の五以内を役員賞與金として其期營業費を以て支出するものとす」と定め損金と見るべき營業費より役員賞與金を支出して報償契約に違背し、賞與金の莫大なる金額を營業費の内から隠匿して損益計算書中利益金處分案に現はさず暗より暗の内に之を奪て居る。既に重役は給料及賞與金の外に今回増資を機として鈴木常務の如きは九千九百七十株の株主に對し約拾萬圓のプレミアムを稼ぐ上に重役功勞金を私するは不當である。然も今回の重役功勞金は大正十五

年の五千五百萬圓の増資に絡まる重役の功勞株が互新慶事件を再興せしめんとしたるを聯想せしむるもので、重役の功勞株及功勞金には當に暗い影がさして居るのである。

### ロ、ガス料金の値下

一、ガス料金の値下の中心をなすものは石炭代と之を含む生産費とである。會社は七七年には石炭が一噸當り二十二圓に騰貴したことを口實にして千立方呎に付き一圓の値上を要求したのである。然るに市會は種々の折衝を重ねて五十錢の値上を承認した。然らば會社は五十錢の値上計劃を失ふたのであるから當然九米の配當を減けることが出来ないで減配しなければならぬ筈であるに拘はらず、五十錢の値上を以て九米の配當を据置きとして居るのは、前首の虚偽を證明するものである。然るに最近炭價は十七圓に落ちて居るから二十二圓の當時千立方呎の料金二圓二十五錢としたならば、十七圓の時には二圓になつて然るべきである。

而して瓦斯の生産費はどれ位かと云ふに石炭一噸から一萬六千立方呎から二萬立方呎の瓦斯がとれる。石炭一噸の二割から三割五分がガスとなり七割から六割がコークスに一回がターブルピッチ其他になる。コークス其他を石炭と同値と見て石炭一噸當り十七圓とすれば千立方呎の石炭代は二十錢である。かく計算して千立方呎に付製造費は六十錢となり、之に供給費二十五錢、營業費等の總經費五十錢を加へて千立方呎の生産費用は約一圓三十五錢である。之を市内に於て二圓二十

計は續する事問答の調査に基づくものである。

二、上述のガスの生産費は實際の生産費であるが、ガス會社の營業報告を眞實と見て得たる生産費はどれ位かと見れば、昭和三年下半期の營業報告に於て

ガス販賣高	四十四億六千九百萬立方呎
副生物	
ガスコークス	十萬九千噸
製コークス	五萬四千噸
精製タール	八千石
特製タール	六千石
燃料タール	四千石
硫酸アンモニア	千噸
其他である。之に對して必要とした經費は	
製造費	六百五十萬七千圓
供給費	八十二萬千圓
修繕費	九十一萬六千圓
總經費	百十六萬圓
社債利子	九萬九千圓
諸稅	十七萬七千圓
興業費償却	八十八萬八千圓
市納付金引當	二十七萬二千圓

である。此千八百八十八萬八千圓の半より過半の收入三百十六萬三千圓、收入百二十九萬八千圓、精製所基金三萬四千圓、合計四百四十九萬六千圓を差引たる六百三十五萬圓の經費をガス販賣高四十四億六千九百七十四萬立方呎の中、買入ガス四億五千立方呎を差引きたる眞の生産ガス四十億千立方呎に割當てれば、千立方呎に付き生産費一圓五十八錢である。會社の細工となつてゐる營業報告による考課から見て會社は東京市内外の千立方呎平均料金二圓三十五錢に對して十七錢の利益を得て居る。然も買入ガス四億五千八百四萬立方呎は神奈川コークス會社より四十五萬六千圓にて仕入れ即ち千立方呎當り一圓であつて、之を二圓三十五錢に賣り平均一圓三十五錢の利益を食つて居る。

三、ガス會社は二つのトンネル會社と通謀して利益を隱匿して居る。既に述べたるが如く、東京ガス會社は報償契約に違背して重役賞與金及積立金を營業費の中に含めて會社の利益を出来る丈少なく發表し、考課に於て如何にして利益を隠蔽化さんかの努力が窺はれるのである。そして東京コークス販賣會社を會社の資金により作り、その會社を通じて三星商會に同會社の副生物であるコークスを卸してゐたのである。此の三星商會は東京電燈株式會社に會社の材料を一手に引受けて賣込んだ三引商事の如き役割をなすものであつて、東京ガスの製品を東京コークス會社から一手に引受けて販賣するのである。その重役は若尾鴻太郎氏であつたが、トンネル會社であるとの一般社會からの非難によつて昭和二年末に此三星商會は廢止せられた。この東